



自転車での下校

## Q 交通安全対策について

いずもびんたろう  
出雲敏太郎 議員



## A 交通安全を意識することが重要であり、啓発に努めていく

**問** 航空無線通信所から羽折に抜ける市道115号線や、北市民センター前の交差点から踏切へ抜ける市道9-2号線は依然として危険である。速度規制は可能なのか。

**答** 警察によると、要望が出されれば検討を行うが、周辺住民の同意が必要になることである。

**問** 自転車保険の加入義務化の啓発は。

**答** 広報紙やホームページへの掲載、チラシの配布等で周知を図っており、今後も各種機会を捉えて行っていく。

**問** ヘルメット購入費の助成は。

**答** 財政的に助成は難しいが、啓発等により着用を促していく。

**問** 免許証の自主返納を高齢者に促す取組は。

**答** つるバス・つるワゴンの特別

乗車証を交付しているが、自主返納を促す無料チケットの配付は行っていない。調査を進め、効果的な手法の有無を検討していく。

**問** 交通安全対策が市長の目玉政策であれば、これまで以上のことを政策的に行っていくべきでは。

**答** 市民に交通安全について意識して頂けるよう、引き続き啓発等を充実していく。

◎その他の質問 西中いじめ自殺未遂事件後の教育委員会の取組と小6女兒児童いじめ自殺について

## Q フレイル予防の推進について

ごでんぎたかゆき  
五伝木隆幸 議員



## A 介護予防教室の充実と介護予防グループの拡充を図る

**問** フレイル予防に対する見解は。

**答** 身体面、精神面、社会面といった多面的な捉え方で高齢者の機能低下を防止するもので、介護予防・重度化防止、ひいては健康寿命の延伸につながる大変有意義な取組であると認識している。

**問** 本市の介護予防事業に対する

評価と今後の取組は。

**答** 市主催の介護予防教室のほか、市民主体の介護予防グループの立ち上げと、それをサポートするボランティアの養成等を行ってきた。

元気な高齢者向けの教室は、現在の生活機能を維持していくきっかけ作りの効果がある。機能の低

**問** フレイル予防事業の導入に対する見解は。

**答** 国においても、高齢者のフレイル対策事業の本格実施を計画している。今後の動向を注視したい。

◎その他の質問 まち・ひと・しごと創生について

下者向けの教室では、参加者の約8割に生活機能の維持又は改善が見られている。市民主体の介護予防グループの活動でも、参加者の体力の向上や改善が図られている。今後も介護予防教室の充実を図りつつ、より多くの高齢者が介護予防に取り組めるよう、市民主体の介護予防グループの更なる拡充を図っていく。

